細江カトリック教会だより

初夏（4.5月）号

〒750-0016　下関市細江町 1-9-15　083-222-2294　083-222-0970

ホームページ　http://hosoechurch.sakura

忙しさを生きる私たち

あるベトナム人の若者に「最近、どうしてミサに来ないの？」と尋ねてみましたら、「忙しいですから」と簡単に返事してくれました。これを聞いて、ある神父が「私の辞書には忙しいという言葉はないのですが、やる仕事は多いのです」と、おっしゃった言葉を思い出しました。忙しいという言葉の代わりに、仕事が多いという表現を使うには意味があるのではないかと思います。

忙しいという漢字には心の字があり、亡の字があります。Weblio 辞書によりますと、「亡」には三つの意味があり、すなわち、①存在していたものがなくなる。②死ぬ。③「その場から逃げて姿を隠す」ということです。ですから、忙しいとは心を失うこと、心を亡くすこと、自分の心から逃げることです。

仕事に縛られてしまい、あれこれに追われてしまって心がまともに存在せず、落ち着かない気持ちになることを表している聖書の箇所はマルタとマリアの話です（ルカ１０：３８−４２）。この話から、私たちの日々の忙しさを少し考えてみましょう。

マルタはイエスを心からお迎えし、おもてなしするために、あれこれと心遣いをしながら、忙しくしていましたが、マリアはお話ししてくださるイエスの足元に座り込み、一心にイエスの話を聞こうとしています。一所懸命に働いているマルタはマリアを見て、心がモヤモヤし、イライラし、黙っていられなくなり、イエスに「主よ、妹は私だけにおもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください」と伝えました。それで、イエスは「マルタ、マルタ、あなたは色々なことに気を遣い、思い煩っている。しかし、必要なことは一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」とお答えになりました。

イエスのお答えには「色々なこと」と「一つだけ」の対照が強調されます。この地上で私たちが生きていく限り、生命を維持するために、切り離せない絶対必要不可欠は衣食住です。その生活するために、医食同源に心がけて働いており、病気の予防には、日常の食生活に気を配ることが当たり前のことです。ですが、がめついから、自分に与えてくださった神様のことではなく、この地上に永遠に生き残ることができるかのように、四六時中金儲けばかり考えているのは本当に残念なことです。

人間は、生者必滅（この世に生を受けた者は、必ず滅び死ぬものであるということ）の理から逃れられません。この世の価値、すなわちお金や成功などというものそのものに自分の人生を委ねることは、人生が酔生夢死（何もせずに、むなしく一生を過ごすこと）になってしまいます。私たちは、仕事のために働くことでもなく、お金そのものために働くことでもなく、食べ物そのもののために求めて探すことでもなく、むしろ私たちの生活のために働くということです。もし仕事やお金などそのもののために働くと思ったら、それらのものを神としてその神々のために働いているということになります。

心乱れ、喜びを失った中で、本当に喜んで希望のある人生を生き、そうなるために必要なただ一つのことを主イエスは教えて下さっているのです。それが、マリアのように、主イエスの足もとに座って、そのみ言葉にじっと耳を傾けることです。それによって神様との関係における命を守ることができます。ですので、永遠の命、すなわち神との関係が失われたくなければ、仕事がどのように忙しくても、それを理由に神様のみことばを聴く機会や神様とのコミュニケーションを取り上げてはならないのです。

イエスご自身にとって神である父とコミュニケーションがどれだけ重要であったかはそれについて書いてある箇所がたくさんあります。例を挙げますと、「しかし、イエスの評判はますます広まり、大勢の群衆が、教えを聞いたり病気を治してもらうために集まってきた。だが、イエスは厳しい所に退いて祈っておられた」（ルカ５：１５−１６）。これは、イエスは大勢の群衆でいつも忙しくされましたが、ご自分一人で父と話す時間を設けたということを示します。つまり、忙しくて時間はないという問題ではなく、いわゆる仕事を第一にすることではなく、父とコミュニケーションを第一にすることによって、どんなに仕事が多くても神様と話し合う時間を作ります。

私たちがこの地上に生まれてきたのは死ぬためではなく、生きるためであり、滅びるためではなく、永遠の命を得るためです。そのために、神さまは私たちに様々な恵みを与えてくださいます。その中に明らかになった一つは物事に支配されることではなく、物事を支配する恵みです。私たち一人ひとりがこの恵みを果たすことができるようにお祈りを申し上げます。

トアン　神父

＊挿入画
フェルメール作 「マルタとマリアの家のキリスト」

枝の主日・聖週間・復活祭　3/24〜31

＊枝の主日

＊聖木曜日（主の晩餐）
洗足式

＊ご聖体は2階和室の
仮祭壇へ

＊聖金曜日（主の受難）

＊聖土曜日（復活徹夜祭）
復活ローソクに光が
灯されて

細江教会聖堂の思い出　Ⅵ

以前のお御堂の思い出を書くよう願われて何を書けばいいかわからないのですが、思い出すままに書いてみます。

以前のお御堂は高台の上に大きく高く建っていましたが、世間の人は天使幼稚園の名前を出さないと、どこにあるのかピンとこないことが多かったです。でも、飲み屋さんの並ぶ通りを抜け、結構急な坂を上って、たどり着く教会は、その町の人々を沈黙の中で、見守る大きな存在でした。

坂を上ると、主日や祭日のミサの時は、駐車場には誘導して下さっている方々、扉の側には受付の人たちが迎えてくださいました。中に入るとミルトスのグループが、季節を感じさせるものや工夫されたものを販売していて、そのおかげで、苦しんでいる方々、援助を必要とされている方々を思い起こします。そして、お御堂を目指して、今度は階段をのぼります。初めの階段を上り詰めると、そこは中二階。マリア様のご像があって、誰かが祈った後のろうそくが灯っていたり、祈っている方がいたりします。

それから、２つ目の階段をまた上ってお御堂に到着します。お御堂は祭壇を囲む形に椅子があったので、遠くに座っている信者さんの顔も見えます。ここでミサを一緒に祝い、洗礼式や結婚式、そしてお通夜やお葬儀が行われ生活の大きな区切りを共に過ごしました。

コロナ前はお祝い事があった時、ミサの後に１階のホールでまた集まって、一緒にみんなが準備して、食べたり飲んだりしました。ホールでは、天使幼稚園の園児たちの聖劇を度々見ましたし、一度はベトナムの青年たちの大がかりな聖劇をしてくれたのも、懐かしい思い出です。朝鮮・韓国からの在日の信者さんたちから丸山教会時代の話を聞くと、神さまの家を何とか支えようとする生き生きとした活動と祈りが感じられ、それが細江教会にも繋がっている気がします。そして、今度は海外からの青年たちが以前のお御堂を取り壊す数年前から増えて来て、その存在はもともとこの教会にいた信者さんたち、そして教会の支えとなっているのを感じます。

以前のお御堂を思うと、毎朝の小聖堂でのミサ、一緒に朝ミサに与った方々も思い出されます。時間の流れとともに、その方たちのなかに他県や天国に引っ越しされた方もいて、今は少人数ですけれども、新しいお御堂の完成に向けて、朝ミサのメンバーも増えていくといいなぁ～と願っています。

イエスの小さい姉妹会

新しい教会にあたたかさの息吹を・・・

～ともに歩むあたたかさのある教会～

広島教区の宣教司牧目標は、１０年間の通期は「ともに歩むあたたかさのある教会をめざそう」当初３年間は「あたたかさの源泉に立ち帰る」が目標です。これをもとに細江教会としてはこの１年間「**新しい教会にあたたかさの息吹を吹き込もう**」で取り組みます。わたしたち一人ひとりが一致協力して、ともに喜びをもって、福音を伝えてゆくあたたかい教会に成長して行けるよう歩んでゆきましょう。

教会行事は建て替え中で、ミサや行事は場所や規模が制約され、なにかと不便をおかけしますが、皆様方のご意見とご協力を仰ぐことで、最低限の行事活動を実践していきましょう。

教会は来年２月末完成予定、現在の建築工程は順調に推移しています。

日本各地で地震災害が起きています、下関においても震度３の地震があり震源地（四国方面）は震度６と聞きました。旧聖堂（解体）は老朽化で震度５にて耐震上危険視されていましたが、前倒しに建築計画を実行することで懸案事項はひとまず回避されて、安堵です。

建築資金においてはまだまだです、皆さまのご支援をお願い致します。（同時に教会ホームページに発信）

信徒代表　近藤

宣教ひろば（広島教区）　４/２９（月）

日時：4/29（月・祝）　13:00～16:30
会場：広島カトリック会館・幟町教会
　　愛宮ラサール記念館・聖母幼稚園
主催：広島教区　平和の使徒推進本部

＊広島教区が「交わり、参加、そして宣教する教会」、「あたたかさのある教会」へと内的な刷新を図ることができるよう、本日の「宣教ひろば」の体験を共有し、新たな歩みのための起点にして行きたい。・・・開催にあたっての白浜司教さまのおことばです。

初めに、「シノドス第一期から見えてきたこと」と題して、ベリス・メルセス宣教修道女会のシスター弘田しずえ様の講演。その後、小西広志神父様から「霊における会話」の説明がありました。

「広島教区あるいはあなたの小教区が教会の本来の使命を果たすために、どのようにすればシノドス的教会（ともに歩む教会、あたたかさのある教会）になっていくことができると思いますか？」というテーマで、10 グループに分かれての分かち合いでした。

「シノドス的」とは、「霊における会話」とは何だろうと思っての参加でした。・・・難しく考えないで、心を神さまにゆだねて、相手の話にじーと耳を傾ける。自分だけの視点ではなく、多方面にも広く視野に入れていくこと。もちろん祈りは必然ですが・・・。

わたしたちの教会が「一人ひとりの心があたたかい教会」でありますように・・・。
これからが始まりです。　（K）

教会建替え状況の報告

＊教会の土台は
・地下室ができる程深く・・・掘り下げて

＊4階から見れば↓

編集後記
＊教区の会合で、「facebook を見ているよ」と応援してくださる方々がいらして、細江教会のホームページも見てくださいと、宣伝しました。　小さなことからコツコツと。